

J-クレジット制度
排出削減プロジェクト・
森林管理プロジェクト
妥当性確認報告書

プロジェクトの名称：

A 重油ボイラから木質バイオマスボイラへの更新プロジェクト

妥当性確認 機関名	一般財団法人 日本海事協会
--------------	---------------

発行日 2018年 11月 15日

1 妥当性確認機関の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたプロジェクト計画書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

機関名称	一般財団法人 日本海事協会
プロジェクトの関係者との利害 抵触	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
判断の根拠	当会所定の項目に関して、当会及び審査チームとプロジェクト実施者及びその関係者について重要な利害関係の有無について調査し、存在しない事を確認した。

2 プロジェクト実施者の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト代表実施者 ※プログラム型プロジェクトの場合、「プログラム型運営・管理者」を記載すること。	大林産業株式会社
プロジェクト実施者（代表者以外） ※プログラム型プロジェクトの場合、「削減活動の実施者」を記載すること。	—
低炭素社会実行計画への参加実態 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
温対法特定排出者 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
省エネ法報告対象者 ※すべてのプロジェクト実施者についてプロジェクト計画書の記載内容と実態が整合しているかを確認すること	<input type="checkbox"/> 整合している <input type="checkbox"/> 整合していない <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし

	<p>範囲 ※妥当性確認の範囲がプロジェクト計画書の範囲であることを記載すること</p>	<p>事業場・工場名：大林産業株式会社本社工場（プロジェクト計画書に記載の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記所在地：山口県山口市徳地八坂 700 番地 ・削減方法：木質バイオマスボイラは、CO₂ を実質的に排出しないとみなされるため、工場のボイラの標準的設備の燃料として LPG を利用した場合に比べ、CO₂ 排出量を削減する。 ・GHG 排出源、吸収源及び/又は貯蔵庫：エネルギー起源の CO₂ 排出源 ・認証申請期間：2018 年 5 月 1 日より 2021 年 3 月 31 日まで。
	<p>保証水準 ※妥当性確認の結論を意見として表明する際に採用した水準を記載すること</p>	<p>合理的保証</p>
<p>妥当性確認手続 ※現地審査の実施有無について記載すること ※また、実際に実施した手続、スケジュールについて、サンプリング手法も含めて記載すること</p>		<p>■現地審査を実施した（2018 年 10 月 23 日に訪問） □サンプリングで現地審査を実施した（ 年 月 日に訪問） □現地審査を実施していない</p> <p>戦略分析及びリスク分析を 10 月 15 日に実施し、その結果を踏まえて、現地妥当性確認計画書を作成し、10 月 23 日に現地審査を実施した。オープニングミーティング実施後、プロジェクト計画書についての質疑、サイトツアー、帳票類のレビュー、QA/QC システムの確認、現地審査報告書を作成後、クロージングミーティングを実施した。サンプリングは特に行わず、現時点で設備が設置済である対象施設を調査した。</p>
<p>修正・指摘事項及び解決方法 ※4 における結果を総括し、排出削減量又は吸収量に影響を与える可能性のある、主な指摘事項について記載すること</p>		<p>今回の妥当性確認過程に於いて、プロジェクト計画書(別紙含む)の記載事項に対する修正は概ね下記の通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト計画書中 4 排出削減計画に記載のベースライン排出量、プロジェクト実施後の排出量及び排出削減量と A.3 記載の排出削減量の算定方法との数値の差異について修正頂いた。 <p>その他設定された重要性の閾値を超える可能性のある誤りや指摘事項は検出されなかった。</p>
<p>妥当性確認結果</p>	<p>確認結果</p>	<p>■無限定適正 □不適正 □意見不表明</p>

	<p>意見・結論</p> <p>※4 における結果を総括し、確認結果における意見の理由を記載すること</p>	<p>この妥当性確認は、当該審査業務のリスクを勘案して策定した計画に基づき、意見表明の基礎となる合理的な保証を得ることを求めている。当該審査は、試査を基礎として行われ、算定基準の適用方法、データの測定方法、事業者が採用した仮定、その基礎となるデータの評価、プロジェクト計画書における記載の検討も含んでいる。これらの妥当性確認手続により、当会は、意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。</p> <p><妥当性確認の結論></p> <p>当会は、大林産業株式会社が作成したプロジェクト計画書に記載された2018年5月1日より2021年3月31日までの二酸化炭素排出削減計画は、J-クレジット制度に於ける温室効果ガス排出削減量の算定及び報告の基準である実施要項及び各種実施規定に基づいて作成されており、全ての重要な点に関して適正であると認める。</p>
--	--	---